

# WELL通信



中面特集

### 楽しく体を動かす機能訓練で その人らしい人生を諦めない。

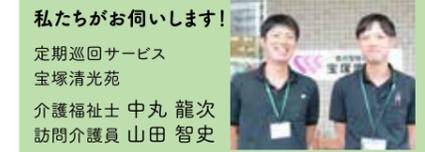
## 事業所 PICK UP

### 定期巡回サービス宝塚清光苑



### 最期まで住み慣れた家で暮らしたい。 その想いを定期巡回で支えます。

【事業所概要】  
〒665-0066 兵庫県宝塚市仁川団地4-15  
☎0798-81-5528  
●対応エリア:宝塚市内の第1地区、(第2地区)



私たちがお伺いします!  
定期巡回サービス  
宝塚清光苑  
介護福祉士 中丸 龍次  
訪問介護員 山田 智史

突然のお困りごとも  
介護・看護が連携して対応



宝塚清光苑では、訪問介護員9名が在籍し、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを行っています。訪問介護サービスとは異なり、毎日短時間で訪問することができ、服薬や点眼のお手伝いや排泄介助、お食事の提供など、ご本人やご家族では難しい日常生活を支えます。また、転倒や排泄など、突然のお困りごとも24時間365日対応。オペレーターが

電話対応し、必要に応じてヘルパーや看護職員が駆けつけます。地域の方が生活に不便を感じるようになった時に、「すぐに入所」ではなく、定期巡回を利用しながらご自宅で過ごすことが可能に。人生の選択肢が広がります。

毎日楽しく、安心して  
過ごしていただくために

私たちは、介護をするだけでなく、コミュニケーションをとることを大切にしています。とくに最近ではコロナ禍で外に出る機会が減り、ご本人だけでなくご家族も地域から孤立してしまっているケースが増えていきます。お一人おひとりが何を望んでおられるのかを考え、趣味の

話や最近のニュースの話などをして、訪問の時間を楽しくいただけるよう意識しています。訪問後は、介護の内容や利用者様の状態、表情などを記録して、システムで管理しています。記録はご家族にも共有していることで、遠方にお住まいでなかなか利用者様に会いにいけない方も日々の様子を確かめてきて安心。写真で様子を見ることもでき、大変喜ばれています。

ケアマネさん・医療関係者と連携して  
お一人を最期まで支えます

宝塚清光苑は、デイサービスや特養なども併設する複合型介護施設です。ケアプランセンター

#### 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスでできること

- ①定期巡回  
1日1~複数回、決まった時間にヘルパーが訪問。服薬やお食事、安否確認、パッド交換などの身体介護を行います。
- ②随時対応  
突然のお困りごともお電話で対応。24時間365日サポートします。
- ③随時訪問  
転倒や排泄など、急な事態にもヘルパーが訪問します。
- ④看護サービス  
必要に応じて看護職員が訪問し、病状観察や服薬管理などを行います。

とも隣接しているのです。ご利用者様のケアマネさんと連携を取り、ご希望や介護度に応じて定期巡回から適切なサービスへとつなげることも可能です。  
私たちの願いは、できれば入所することなく最期までご自宅で過ごしていただくこと。これまでも、利用者様のご希望に応じて何人もの方をお看取りしてきました。介護度の高い方や認知症の方も「最期は自宅」というお声があれば、医療チームとも連携して叶えたいと考えています。最期まで住み慣れた家で過ごす。その希望の最後の砦となります。

## 宝塚清光苑 厨房だより



毎月一回はちらし寿司が出ます

ちょっと豪華な行事食



コロナ前はおでんバイキングも



手づくりおやつも好評



利用者様からいただいた「ありがとう」の手紙は私たちの宝物。「おいしいよ」「元気になるよ」というコメントをいただくと、「もっともっと頑張ろう!」と励みになります!

季節感たっぷり。やさしい「おふくろの味」  
ウエル清光会では、旬の食材を生かした献立にこだわって、事業所内の厨房で作ったできたてのお食事を提供しています。  
宝塚清光苑の食事の特徴は「おふくろの味」。15人の厨房スタッフのうち、女性が14人。家庭でお母さんをしている調理師さん達が作るから、食べやすくやさしい味と評判です。季節の食材をプラスしたり味付けに工夫したりと、ちょっとしたアレンジを加えることも。デイサービスの利用者様の中には、「どこのデイサービスよりもおいしい!」と、お友達を連れてきてくださる方もいるほどです。  
◎この時期おすすめめの献立◎  
夏野菜を使った献立を提供しています。ゴーヤなどのクセの強い野菜も、ミートローフやチャンプルにして食べやすくひと工夫。なかなか外に出られない入所者様にも、お食事を通して季節の移り変わりを感じていただきたいと思いますね。

#### ウエルグループ

##### 豊中市

- 清豊苑 [特]
- 利倉清豊苑 [地/デ/グ/小]
- 美豊苑 [特/ケ]
- 刀根山美豊苑 [地/デ]
- 輝豊苑 [デ/グ]

- ウエルケアプランセンター
- ウエリスト [小/デ]
- 社会福祉法人香聖会 宙豊中 [地/グ/小]
- 庵とよなか庄本 [有]

##### 宝塚市

- 宝塚清光苑 [特/デ/グ/小/ケ/定]
- 芦屋市
- 陽光苑 [地/デ/グ]
- 西宮市
- バセム西宮 [有]



[特]特別養護老人ホーム [地]地域密着型特別養護老人ホーム [デ]デイサービス [グ]グループホーム [小]小規模多機能型居宅介護施設  
[ケ]ケアプランセンター [有]有料老人ホーム [定]定期巡回サービス



ウエルの「今」を  
深掘り!

特別養護老人ホーム清豊苑  
木村 彩子  
小橋 美紅  
宝塚清光苑デイサービスセンター  
谷永 真悟

## 楽しく体を動かす 機能訓練で その人らしい人生を 諦めない。

ウエル清光会には25名の機能訓練指導員が在籍し、入所と通所に分かれて機能訓練を行っています。利用者様にいつまでも元気に楽しく体を動かしてもらうために私たちが取り組んでいることは、一人ひとりの想いに応える機能訓練です。



利用者様のご希望に応じて屋外で歩行訓練。

### 100通りの人生に それぞれのプログラムを

Q ウエル清光会の機能訓練の特徴は？  
木村 介護度や障害の重さは利用者様によって違います。また、「外を歩きたい」「お風呂に入れるようになりたい」などご希望もさまざま。お一人おひとりに合わせた訓練をより充実させるために、各事業所には指導員が2〜3名常駐し、個別のプログラムで細やかに対応しています。

谷永 100人いれば100通りの人生があり、希望があります。単なる訓練ではなく、利用者様の生活歴や想いまでを汲み取り、その方の趣味・嗜好を把握した上でプログラムを提供しています。

小橋 清豊苑では、運動の機会を増やすために集団での訓練も行っています。集団だと、他の人が頑張っている姿を見て「私も頑張ろう」と意欲的になられたり、おしゃべりをしてお友達を作ってもらえたりといった効果も。訓練というより、クイズなどを交えながら、レクのように楽しんでもらっています。

たい」というご希望に応えて、

京都ツアーを開催したこともあり、渡月橋と同じ距離の歩行訓練を行いました。訪れた時は、奥様と歩いた昔の思い出を楽しそうに話されて。1年経ってもその時のことをよくお話されていましたね。



介護士や看護師とも情報共有し、利用者様を細やかにサポート。

りする練習をしています。そうやってたくさんの利用者様の好きなことに取り組み、いつかみんな運動会するのが私の夢。楽しく、諦めず、利用者様と一緒にいろいろなことに挑戦していきたいと思っています。

### ウエルならではの体験を 全ての利用者様に

Q 今後の目標は？

木村 ICTの導入を積極的に進めて業務を効率化し、もっと利用者様との時間を増やしたいと考えています。記録の電子化のほか、歩く姿を動画で撮って解析し、歩行バランスをデータ化してくれるアプリを利用している事業所もあります。

谷永 私の事業所では、訓練の場所を利用者様に選んでもらっています。周辺に自然が多いので、天気の良い日は外に出て歩くことが多いですね。普段は全く外に出られない方などは「数年ぶりに外で歩けた」と喜んでいただけます。これからも、ウエル清光会だからこそ提供できる体験をどんどん増やしたい。最終的には、私たちの手だけでなくご自身で楽しい体験をできるようになってもらうのが大きな目標です。

小橋 清豊苑には野球が好きな利用者様がいらっしやっ、ボールを投げたり打った

Q 訓練で心がけていることは？

谷永 訓練中に必ず一度はめちやめちや笑ってもらおうようにしています(笑)。運動することを「しんどい」と思うより、楽しんでほしい。デイサービスで運動を続けてもらうためには通ってもらわなければいけないし、通ってもらうには「楽しい」と感じてもらわなければならない。

小橋 私も、笑ってくれる瞬間や手を動かしてくれる瞬間を見つけて、「やってみよう」という気持ちになってもらえらるように関わっています。特に心がけているのが、興味ある話題で会話を楽しんでもらうこと。喋る機能を維持することで、介護の中でも「してほしい」「してほしくない」という意志表出をしっかりとできるようになってほしいと思います。

木村 運動能力は年齢とともに落ちていくのが現実。だからこそ、「歩ける」「立てる」ことばかりにとらわれず、「好きなものを食べる」とか「趣味を楽しむ」とか、その方にとって大事な価値観や時間の過ごし方



お一人おひとりとしっかりコミュニケーションをとります。



清豊苑では、集団での訓練も行っています(コナ前の写真です)。

小橋 ご本人もご家族も、「年を取ればこんなもの」という意識がありますが、適正な評価をすると実は歩けることだってあります。「諦めない」ということが大切ですね。

木村 利用者様の中には、入所された当初は立つこともできなかったのに平行棒を持つてご自身で歩けるようになった方や、押し車を押してデイに通えるくらいにまで回復され、ご自宅に帰った方も。ご家族との時間が増えて、とても喜んでくださいました。

谷永 「昔行った渡月橋をもう一度歩いて渡り



地域の方にも健康になっていたため、訓練メニューをブログで公開中です。